



## 第2章 苫小牧市の生涯学習を取り巻く現状と課題

### 1.生涯学習とは

生涯学習の考え方は、フランス人のポール・ラングラン（Paul Lengrand）が、1965年の国際ユネスコ大会に提出した「Lifelong integrated Education」の「教育は児童期、青年期で停止するものではない。それは、人間が生きている限り続けられるべきである。」から始まっています。日本においては1971年以降から生涯学習に対する議論が開始され、その後、法及び基盤の整備が進められ、社会教育から生涯学習への大きな方向転換を図ってきました。

近年における生涯学習の概念としては、「学校における教育や学習のみにとどまらず、自らの意思と選択によって、人生のあらゆる過程で、各人の興味・関心や生活領域に応じて行われる様々な学習活動」を総称するものとなっています。また、人々が生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会として「生涯学習社会」という言葉も用いられています。

苫小牧市においては、教育推進の指標と総括重点に「未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、連帯と共生の豊かな心と活力にあふれる人を育てる」と規定しており、自立・連帯・共生をキーワードに教育の推進を図っているところです。

様々なジャンルの学び、世代や性別、国籍、文化の違い、障がいの有無に関わらず、お互いの多様な生き方を知る・理解することにより、「他者を知り、他者との違いを当たり前として捉えること」で、初めて人は支え合い、自分の力を発揮することができるといえます。このような自立と連帯、そして共生を育む観点からも、一人ひとりの生涯学習の取組は重要な意味を持つといえます。

### 2.国及び北海道における生涯学習の取組

現在、国においては「第2期教育振興基本計画（平成25（2013）年6月14日閣議決定）計画期間：平成25（2013）～29（2017）年度」において、「自立」、「協働」、「創造」の3つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を旗印として取組を進めているところです。また、2018年度からスタートする「第3期教育振興基本計画」の策定に向けた基本的な考え方としては、以下5点を基本的な方針として掲げています。

- 1.夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する。
- 2.社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する。
- 3.生涯学び、活躍できる環境を整える。
- 4.誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する。
- 5.教育政策推進のための基盤を整備する。

3.において、生涯学習の取組を規定し、「一人ひとりが活躍していくための学びの継続」、「社会人の学びの継続・学びなおしの推進」、「障がい者の自己実現を目指す生涯学習の

推進」、「人生 100 年を見据えた『二つ目の人生』を生きる力の養成」を掲げ、取組を推進することとしています。

北海道においては、平成 28 (2016) 年度から「第三次北海道生涯学習推進基本構想 (平成 27 年 3 月策定)」に基づき、「社会で生きる力を身に付け、持続可能な潤いのあるふるさとづくりを進める社会」を主題とし、生涯学習の取組を進めているところです。構想においては以下の 3 点を重要な視点とし、生涯学習の推進を図ることとしています。

#### ◇視点 1◇ 道民の学びを行動へとつなげる

道民が主体的に学び、その成果を生かし、さらに学びを深める循環を生み出すためには、様々な主体が相互に連携しながら、多様なニーズを踏まえた学習機会を提供し、より多くの道民が主体的に学習に取り組むことを前提としています。その上で、学んだ成果を地域の中で活用する場や仕組みを構築することはもとより、行動に移しやすくするため、同じ課題意識を持つ人々が集まる団体の育成やネットワークづくりなど、団体活動を促進するための環境整備が重要としています。

#### ◇視点 2◇ 子どもたちの学びを広げ、支える

今後、少子化や過疎化が進行するとともに、他府県に比べ単独世帯や核家族世帯が多く、三世帯世帯が少ないなど、子どもを取り巻く環境も変化することが予想されるなか、北海道が将来に渡って持続的に地域コミュニティを維持するためには、次代の担い手である子どもたちが生涯学習の実践者として自ら学び、健やかに成長することはもとより、それを周りの大人が支えることや、学校・家庭・地域社会が連携・協力して子どもたちを守り育てていくことが必要です。また、生涯学習で得た知識や経験を、地域で受け継いでいくという点も重要としています。

#### ◇視点 3◇ 地域のよさや課題を学ぶ

地域は多様な人間関係の中で、子どもたちが固有の文化の伝承や遊びなどを通して、社会の基本や道徳心など、社会で生きるための基礎を学ぶ重要な場であるとともに、家庭での教育を支えていく役割を担っており、人口減少や過疎化が進行するなか、そこに住む住民には地域を持続的に引き継いでいくという重要な役割が課せられています。

生涯学習には地域の課題を解決するなど、地域づくりに寄与することが期待されていることから、住民が地域の諸課題を自らのこととして捉え、解決に向けて行動するための学習を活発化させるため、「地域のよさ」を再認識する機会や、地域の諸課題を学ぶ機会、さらには、学びの成果を生かす機会の提供など、地域社会教育の活動推進が重要としています。

### 3. 苫小牧市の状況～社会的背景と生涯学習に求められる事柄～

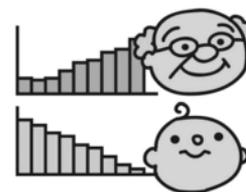
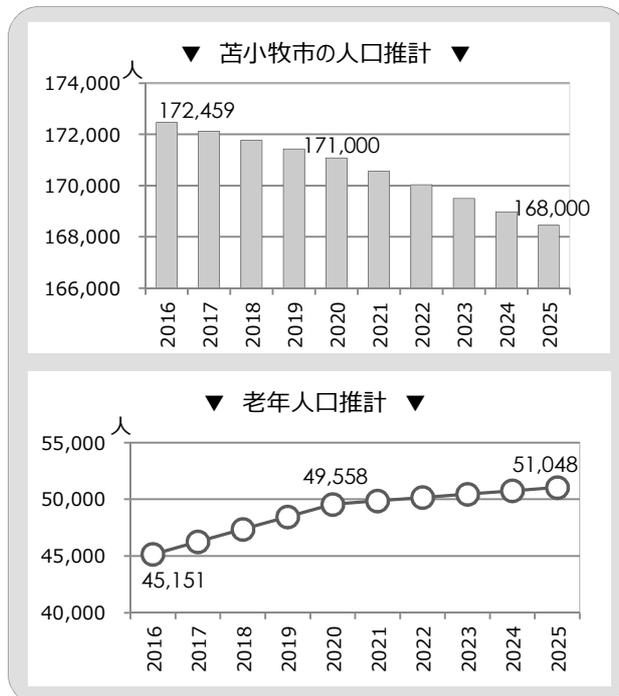
#### (1) 人口減少と少子・高齢化の進行

本市の人口においても他都市と同様に、2020年には約171,000人、2025年は約168,000人になると推計（総合計画：第6次基本計画策定時）されており、2010～2014年に到達した174,000人のピークから約5,000人の減少が見込まれています。

また、老年人口（65歳以上）の割合は、2010年では21.1%でしたが、15年後の2025年には30.3%と、人口の3割が高齢者になることが見込まれています。

一方、年少人口（14歳以下）の割合は、2010年では13.6%でしたが、15年後の2025年には12.6%となり、少子化が進むことも予想されています。

このようにこれまで経験のない人口減少社会や少子・高齢化社会の進行により、社会保障費の増大や、生産年齢人口の減少による税収の減、経済規模の縮小などが想定され、様々な事柄に影響を及ぼすと予測されます。



#### <生涯学習の取組に求められる点>

##### ・社会構造変化に伴う各種課題解決に向けた学びの充実

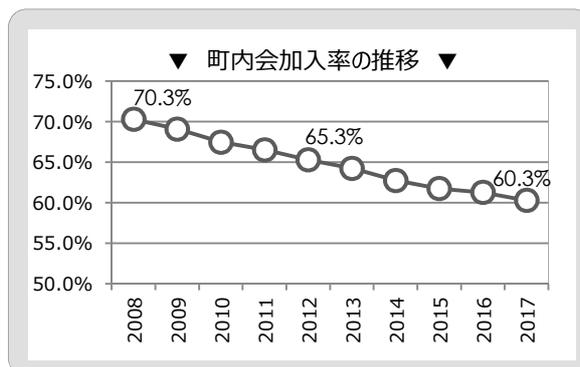
少子・高齢化などの社会構造変化に伴う様々な課題に対応できる次代を担う人材育成と学習機会の充実が求められる。

##### ・セカンドライフ世代の活躍機会の充実

セカンドライフを迎える世代の増加を見据え、学びの場を通じて積極的に社会に参加し、持てる能力を発揮し、生きがいを持てる仕組みづくりが求められる。

#### (2) 地域コミュニティの変容

近年、人と人とのつながりや地域の連帯意識の希薄化が進んでいることが問題となっています。本市においても町内会加入率の低下が表すように、人々のライフスタイルの変化や価値観の多様化により、地域コミュニティの希薄化などが進んでいます。



地域社会におけるこれらの現状は、市民の高齢化に伴う様々な課題や、安全安心の観点での課題などを生み出すとともに、教育の面においても家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されているところです。

このような中で、生涯学習の学習成果を地域づくりや学校現場に生かすことは、子どもの健全育成とともに地域コミュニティの活性化につながるものと期待されています。

#### <生涯学習の取組に求められる点>

##### ・地域社会の活性化、絆やネットワークの再構築

複雑化する地域社会の課題に対応していくためには、活性化や再構築につながる生涯学習活動の充実が求められる。

##### ・地域社会と学校の連携

地域住民の多様な知識や経験を生かし、子どもの学習に関わるなどの子どもの教育環境を豊かにすることが求められる。

### (3)情報化の急速な進展

各世帯におけるパソコンの普及をはじめとして、近年、スマートフォン、タブレット型端末の急速な普及は目覚ましいものがあります。また、本市においても公共施設や商業施設などにおける Wi-Fi 環境の整備により、日常的にこれらを利用する環境が整ってきています。平成 28 (2016) 年度におけるデジタル端末の普及率はスマートフォンでは北海道で 63.5%、全国では 71.8%となり、パソコンにおいては北海道で 71.8%、全国では 73.0%という高い値となっており、誰もがいつでもどこでも情報を手軽に入手できる時代に到達しています。

高度情報化とともに、複雑化する社会構造に伴う市民の多様化・高度化する学習ニーズ、地域社会の多様な課題が増加する環境において、生涯学習活動の更なる推進に向けては、情報提供のあり方が大きな鍵を握ると考えられます。

#### ▼北海道における情報通信機器の保有状況▼

項目	北海道 普及率 (%)	全国 普及率 (%)
スマートフォン	63.5	71.8
タブレット型端末	34.8	34.4
パソコン	71.8	73.0

※通信利用動向調査(世帯編)平成 28 年度報告書の表 6 情報通信機器の保有状況(総務省統計調査データ)



#### <生涯学習の取組に求められる点>

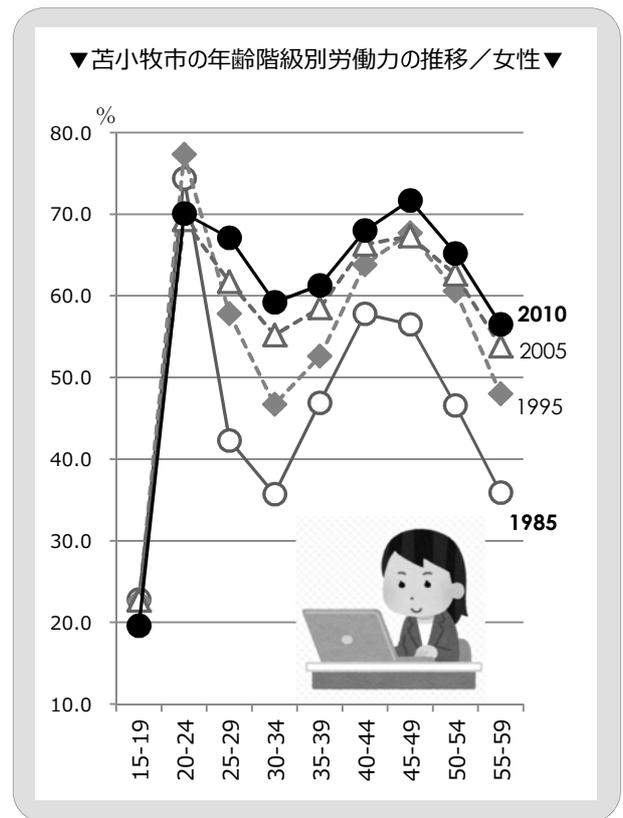
##### ・インターネットの普及とデジタル端末の多様化に対応した情報発信

多様なデジタル端末に対応した情報発信の充実とともに、ICT を活用した学習の充実が求められる。

#### (4)社会・雇用環境の変化

近年の経済のグローバル化による雇用環境の変化など、私たちを取り巻く社会環境は刻々と変わり続けるとともに、雇用環境においてはさらなる高度な知識や技能を求められるということがあります。そのような環境においては、学校教育のみならず、社会人においても学びを継続する、学びなおしをするということが求められています。

本市の年齢階級別労働力の推移／女性の1985年と2010年のグラフを比較するとM字カーブが以前より緩やかになっており女性の社会進出が進んでいることが分かりますが、市民一人ひとりが社会で活躍していくためには、さらなる女性の社会進出や子育ての一段落した方の再就職に関わる学びの充実も求められています。



#### ＜生涯学習の取組に求められる点＞

##### ・一人ひとりが活躍していくための学びの継続

スキルアップや転職に向けた学びなおし、再就職やライフスタイル、社会のニーズに合った学習機会の充実が求められる。

## 4.生涯学習に関する市民アンケート結果〔平成29（2017）年1月実施〕

## 【市民アンケート実施概要】

調査期間：平成29（2017）年1月16日から1月31日

実施方法：郵送調査／満18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）

施設調査／市内生涯学習関連施設利用者（14施設）

回答数：郵送調査／565人（回答率28.2%）

施設調査／417人

## (1)市民の生涯学習の取組

「生涯学習活動に取り組んでいる人」は郵送調査では24%、施設調査では71%という結果となっており、施設来館者においては、生涯学習活動を行っている傾向が現れています。活動内容の上位は表のとおりであり、郵送・施設の両調査において「趣味的なもの」、「健康づくり」の活動が多くなっています。

また、年齢別にみると65歳以上の方が「行った」という割合が高く出ています。

「生涯学習活動を行っていない人」は郵送調査76%、施設調査29%となっており、その理由は「仕事や家事が忙しい」が圧倒的割合を占めています。また、「希望の講座がない」、「講座の時間・時期が合わない」も上位となっています。

年齢別に見ると20代から64歳の世代について、「行っていない」割合が高く、その理由も仕事や家事が忙しいという回答が圧倒的な割合となっています。

## ▼生涯学習活動の取組▼

項目	郵送調査		施設調査	
行った	137	24%	296	71%
行っていない	428	76%	121	29%

※主なもの一つ回答

## ▼生涯学習活動の内容▼

項目	郵送調査		施設調査	
1位	健康づくり	32.8%	趣味的なもの	47.0%
2位	趣味的なもの	27.1%	健康づくり	17.6%
3位	教養的なもの	10.2%	教養的なもの	16.9%
	職業上の技能・資格	10.2%		

※主なもの一つ回答

## ▼生涯学習活動を行っていない理由▼

項目	郵送調査		施設調査	
1位	仕事や家事が忙しい	46.5%	仕事や家事が忙しい	38.0%
2位	講座の時間・時期が合わない	7.7%	希望の講座がない	16.5%
	学習機会の情報が無い	7.7%		
3位	希望の講座がない	6.3%	講座の時間・時期が合わない	11.5%

※主なもの一つ回答

## ＜生涯学習の取組に求められる点＞

- ・働いている世代のニーズを把握した講座の充実と働きながら学べる環境の整備
- ・学びの継続には心身の健康保持・増進が必要なため健康やいきがづくりの講座を充実



### (2)生涯学習情報の入手

生涯学習情報の入手先としては、活動を行っている人は、郵送・施設調査ともに「市からの情報」が60%以上と圧倒的割合を占めており、「市広報紙」、「生涯学習だより」の市の広報媒体を見ているといえます。活動を行っていない方の日常生活における情報入手先は、郵送では「民間から」、施設では「市から」が高い割合となっています。

▼生涯学習情報の入手先▼

項目	郵送調査		施設調査	
	行った方	行っていない方	行った方	行っていない方
1位	市から 60%	民間から 56%	市から 69%	市から 51%
2位	民間から 21%	市から 38%	友人・家族等 19%	民間から 37%
3位	友人・家族等 19%	友人・家族等 6%	民間から 12%	友人・家族等 12%

※主なもの一つ回答

【生涯学習だより（年2回発行）】→各施設における講座・教室の開催情報を市内全戸配布（市教育委員会で作成・配付）。



#### <生涯学習の取組に求められる点>

・これまでの生涯学習情報の提供媒体の見直しと手段の拡充

### (3)生涯学習活動の支障

生涯学習活動を行っている方で、活動の支障になる点としては、「費用がかかる」、「時間がない」、「場所・施設が近くにない」が多くの割合を占めています。年齢別にみると30から50代においては「時間がない」という回答が多く、すべての世代において「費用がかかる」という結果となっています。また、施設調査においては、「関心や目的に合う講座がない」という回答も多くなっています。

▼生涯学習活動の支障となること▼

項目	郵送調査 (活動を行っている方)		施設調査 (活動を行っている方)	
	1位	費用がかかる	44	費用がかかる
2位	時間がない	39	関心や目的に合う講座がない	47
3位	場所・施設が近くにない	27	場所・施設が近くにない	46

※複数回答



#### <生涯学習の取組に求められる点>

・費用負担の軽減につながる国・道・企業との連携による講座の開設と充実

#### (4)市民ニーズの状況

今後してみたい生涯学習活動については「健康づくり」、「趣味的なもの」、「家庭生活に役立つもの」について圧倒的割合を占めますが、年齢別に見ると、40代において「家庭生活に役立つもの」、「職業上の技能、資格」、「パソコン関係」が多くなっており、就業上のニーズがあることが分かります。

##### ▼今後してみたい生涯学習活動▼

項目	郵送調査		施設調査	
1位	健康づくり	189	趣味的なもの	52
2位	趣味的なもの	140	健康づくり	48
3位	家庭生活に役立つもの	96	家庭生活に役立つもの	29
4位	職業上の技能、資格	74	教養的なもの	21
5位	パソコン関係	73	育児、子育て、教育	8
			パソコン関係	8

※複数回答



#### <生涯学習の取組に求められる点>

・的確な市民ニーズの把握と産業構造の変化や社会人・企業ニーズを踏まえた講座の充実

#### (5)今後の生涯学習への取組

生涯学習活動を行うにあたり必要なことは「講座・教室情報の充実」、「各施設の講座、イベントの充実」、「各施設の整備と充実」が大きな割合を占めています。施設調査においては、「指導者・学習ボランティアの充実」、「地域活動、ボランティアの充実」が多い点も見られます。

また、年齢別に見ると70代以上においては、「生涯学習相談窓口の充実」というニーズも見られます。

##### ▼生涯学習活動を行うにあたり必要なこと▼

項目	郵送調査		施設調査	
1位	講座・教室情報の充実	274	講座・教室情報の充実	194
2位	各施設の講座、イベントの充実	172	各施設の講座、イベントの充実	135
3位	各施設の整備と充実	104	各施設の整備と充実	88
4位	生涯学習相談窓口の充実	74	指導者・学習ボランティアの充実	71
5位	地域活動、ボランティアの充実	72	地域活動、ボランティアの充実	46

※複数回答

#### <生涯学習の取組に求められる点>

・各地域での講座等の開催と、学んだ成果を地域活動やボランティアで生かせる場の充実

## 5.第四次計画の検証

### (1)検証の方法

検証は第四次計画に掲げた具体的な施策について、平成 25 (2013) 年度からの 4 年間についての取組状況の確認と、第四次計画と国及び道の生涯学習構想の比較により、新しい視点の抽出を行い、次期計画につなげるものとして、2 種類の方法により現状と課題の把握を行いました。

### (2)社会教育委員による検証

第四次計画は、推進の重点目標が 2 項目、推進の方向が 6 項目、施策の展開が 22 項目、具体的な施策として 60 項目の構成となっており、具体的な施策に基づいて所管課が実施した事業、及び 4 区分 [A (達成)・B (概ね達成)・C (達成不十分)・D (事業の見直しを要する)] の自己評価を掲載した評価表を作成し、それに基づき社会教育委員の検証を行いました。委員においては施策 60 項目について、3 区分 [1.継続 (現状維持)、2.さらに強化 (取組強化)、3.やや弱化 (取組弱化)] の評価を行いました。

評価結果は 60 項目の施策のうち、3.やや弱化の項目も見られましたが、「継続」の評価が多い項目は 54 項目、「強化」の評価が多い項目は 6 項目という結果となりました。

#### <さらに強化 (取組強化) の評価となった具体的施策>

第 4 次計画の具体的施策		主な社会教育委員意見
施策番号	内容	
1	家庭の教育力向上のための相談体制や学習機会の充実	子どもたちの発達に関する相談体制についてさらに充実が必要
7	ボランティア活動や地域活動への参加促進	普段からボランティア活動に積極的に参加できる機会の充実が必要
36	生涯学習支援機関のネットワーク化	ホームページによる情報提供の充実とさらなる拡大が必要
39	講座・教室の学習者から指導者へ育つための研修会などの開催	学習者の広がりを図るため、指導者が増えることが重要
45	地域のつながりを創り出すコーディネーターの育成・支援	町内会とのタイアップやコーディネーターの育成・支援が必要
58	市民による自主的な地域課題解決のプログラムづくりの支援	市民講座開設の支援と他のツールの検討が必要

#### <その他継続項目の主な意見>

施策の区分 (第四次計画施策の展開)	社会教育委員意見
子どもの学習支援	子どもたちの学ぶ力の育成には、学校教育のみではなく地域が学校を支援することが大切
団塊世代や高齢者の学習支援	学びなおしの機会づくりが必要
すべての世代の学習支援	定年退職等の方の活躍の場やボランティアの育成・増対策が必要
人材を生かす場の設定と体制づくり	シニア世代の社会参加のパイプを創る必要
市民・団体・企業と行政との連携と融合	地域活性化に向けた町内会活動のさらなる支援が必要
市民参画のプログラムづくり	学校教育は地域が協力するという観点が必要

### ●社会教育委員評価から導き出される視点

さらに強化（取組強化）及び継続（取組継続）のなかで社会教育委員の意見より、次の6点が社会教育委員評価による検証結果からの視点となりました。

1. 子どもたちの発達や学びの支援強化に向けた相談体制の拡充
2. 人材の育成、学んだ成果を生かせる場やボランティア活動の充実
3. 生涯学習情報提供のあり方と既存媒体の見直し
4. 地域活動の活性化と地域の課題を学び、対応する活動への支援
5. 地域と学校の連携強化
6. 団塊世代や高齢者の学びなおしの機会の充実

### (3)国及び道の取組との比較に基づく検証

国及び道の取組との比較に基づく検証については、本市の第四次計画と国（文部科学省）の「第3期教育振興基本計画策定に向けた基本的な考え方（2018年度からの計画策定に向けた考え方）」と北海道教育局の「第3次北海道生涯学習推進基本構想（平成27年3月策定）」の比較により、新しい視点の抽出を行いました。

第四次計画に規定がなく、国・道の計画に規定されている時代背景を反映した取組としては、以下の8点が挙げられ、比較に基づく検証結果からの視点となりました。

### ●国・道比較から導き出される視点

1. 一人ひとりが活躍していくための学びの継続
2. 社会人の学びの継続と学びなおしの推進
3. 「二つ目の人生を生きる力」の育成
4. 地域の活性化に寄与する観点の追加
5. 地域とともにある学校づくりの視点の追加
6. 地域の絆やネットワーク構築の観点の追加
7. 子どもたちの学びの支援の強化に向けた取組
8. 地域のよさ、課題を学び、対応する観点の追加

## 6.第五次計画の策定方針

第五次計画策定方針としては、これまでの第四次計画の取組の継続という視点とともに、第3節：苫小牧市の状況、第4節：生涯学習に関する市民アンケート結果から導き出される生涯学習の取組に求められる点、第5節：第四次計画の検証からの新しい視点を統合し、市民ニーズや時代に適合した新計画を策定することを方針として「基本施策」、「重点施策」、「具体的な施策の展開」の内容の検討を進めました。